

【新聞活用学習】 全校／高校１年生・現代社会

「新聞記事を通じて社会の様子に目を向け、未来について考えよう」

指定校１年次 長野県屋代高等学校 櫻井大然

（１）本年度のN I E活動の概要

N I E研究指定校１年目の本年度は、生徒がより新聞に触れる機会を設定すること、探究的な学習活動において新聞を活用できる手段の幅を広げること、教科授業の中で新聞記事を活用し現実社会とのつながりを意識した主体的で対話的で深い学びを実践することの３つを中心にN I E活動を行った。

機会の設定として、３カ所の新聞閲覧コーナーを設置した。活用の幅として、スマートフォンやタブレット端末など生徒所有の個人端末を用いて、信濃毎日新聞データベースを利用した。教科学習においては、信濃毎日新聞の連載記事「五色のメビウス」を用いて、日本における外国人労働者を取り巻く状況に焦点をあて、これからの共生社会に向けて考察する授業を実施した。

これらの実践を通して、生徒たちは、新聞記事を通して社会で起きている事象を、自身の関心ある事柄と関わらせながら、より考察を深めていくことができた。また、個人端末を用いた新聞記事の活用は、N I E活動の幅を広げる可能性があることを気付かせてくれるものでもあった。

今後、じっくりと新聞記事に向き合うことと個人端末の利便性とを融合させ、生徒の学習活動をより深める新聞活用のあり方を探っていきたい。

（２）本年度のN I E活動の取り組み状況（４月時点）

本校は全校生徒 838 名、１学年 7 クラスである。このうち 1 クラスは理数科、2 クラスは附属中学校からの一貫生である。

全校でのN I E活動を目標とし、各学年の棟を結ぶ渡り廊下に新聞閲覧コーナーを設けた。

校内にはWi-Fi環境が整備されており、また１年生は全員がタブレット端末を所有している。２・３年生は各自が所有するスマートフォンで校内のWi-Fiを利用することができる。こうした環境を生かして、信濃毎日新聞データベースの利用を案内し、その利用も促した。

また本校はスーパーサイエンスハイスクール（SSH）事業の指定を受け、学校設定科目である高校１学年の「一人一研究」、高校２学年普通科の「課題探究」、また高校２学年理数科の「課題研究」等、生徒が興味・関心あるテーマについて課題を設定し、自ら調査・研究を行う探究的な学習活動の機会がある。これらの探究活動においても新聞を活用できるよう、閲覧コーナーの新聞利用、信濃毎日新聞データベースの利用を案内した。

生徒たちだけでなく、教師へも同様に案内するとともに、これまでのN I E活用事例等を紹介し、授業やHRなど可能な範囲での新聞活用を依頼した。

（３）N I E活動の狙い（育てたい力）

教科学習・探究活動でのN I E活動を通して、本年度は次のような力を育てていく。

①：社会の実情を捉え課題を見いだす力

②：情報を集約・整理・共有する力

(4) 全校での取り組み

・新聞閲覧コーナーの整備

3 学年が 3 つの棟に分かれて日常の学習を行っているため、各棟を結ぶ渡り廊下を中心に、3 カ所に 2 紙ずつの新聞の閲覧スペースを設けた。また新聞販売店・同窓会・同窓生より寄贈いただいた新聞閲覧台を各箇所に 1 台設置し、より生徒が読みやすい環境を整備した。

朝の始業前や休み時間に読み込む生徒の姿や空き時間に目を通す職員の姿もあり、新聞に触れる機会を増やすことができたと思われる。



・信濃毎日新聞データベースの活用

探究活動等での新聞利用を促進するため、信濃毎日新聞データベースを【NIE 学校会員】として契約し、生徒の記事検索の利用につなげた。探究活動の時期に合わせて、全校へ信濃毎日新聞データベースの使い方等を通知し、スマートフォンやタブレット端末など生徒所有の個人端末でも記事検索をできるようにすることで、新聞活用の機会の幅を広げることができた。

(5) 公開授業などの活動内容

①日時：2021 年 11 月 5 日（金）5 時限（13:40～14:35）

②対象：1 年 6 組（41 名） 421 教室

③科目：現代社会

④授業者：櫻井 大然

⑤単元名：「今日の労働問題と外国人労働者」

(1) 単元構想

1. 労働基本権と雇用情勢（1 時間）
2. 労働条件と課題（1 時間）
3. 今日の労働問題と外国人労働（1 時間）…本時

(2) 本時の視点

- ・ 日本国内で暮らす外国人が増加傾向にある中で、国内における外国人を取り巻く環境は大きく変化している。外国人の単純労働は禁止されながらも、技能実習制度や特定技能制度などにより、多くの外国人労働者が日本国内で働いている。しかしながらその労働環境や待遇には厳しいものがある。そのような外国人労働者の労働環境を、同じ日本で働く者の労働環境として捉えることを目指す。
- ・ 外国人労働者の受け入れは、単なる「労働力」としてのみ受け入れているわけではない。彼らが日本で暮らすということはどういうことなのか、「人」を受け入れるとはどういうことなのかを考えさせる。
- ・ 新聞記事をもとにしながら、あぶりだされてくる外国人労働者の実態を読み取り、これからの共生社会のあり方について考察する。

(3) 本時の展開例

段階	学習内容	学習活動	指導・助言
導入 (5分)	- 衆院選でも外国人参政権が課題になったことを紹介(資料①) - 現段階において、働く際に自身が大事にしたいことは何かを考える。	- 外国人参政権の制限 10の項目の中から、自身が働く際に大事にしたい項目を一つ選ぶ。	- どの項目を選択したのか、周囲で話し合わせ、確認させる。 - これからのキャリア形成において、選択の際にはこうした自分なりの価値観が大事になることも伝える。
展開1 (15分)	- 自身が選択した大事にしたい項目が、日本で働く外国人労働者にとってはどうだろうかということを考える。 - 日本で働く外国人労働者が置かれている現状を知る。	- 信濃毎日新聞データベースにて、自分が選択した大事にしたい項目をキーワードにして、外国人労働者に関する記事を検索する。 - 検索した中から記事の一つを選び、ワークシートに記事の内容を記入する。	- 生徒が選択した項目は、日本で働く外国人労働者にとってはどうだろうかと問いかける。 - 記事検索の際には、「五色のメビウス ○○(キーワード)」などで検索させ、関連記事を絞らせる。
展開2 (25分)	- 調べた記事の内容をグループ内で共有する。 - 日本で働く外国人労働者にとって何が問題となっているのか、グループで話し合い、まとめる。 - グループごとに意見を発表する。 - 信濃毎日新聞の「五色のメビウス」最終提言を見る。(資料②)	- 自分が選んだ項目、検索した記事の内容をグループメンバーに共有する。 - ここまで学習してきた、人権や社会保障と照らし合わせて、外国人労働者はどのような環境にあるかグループで話し合う。意見をまとめ、グーグルフォームにて送信する。 - グループごとに発表し、どのような問題点があるかそれぞれの発表を聞きながら、ワークシートにまとめる。 - どのような提言がなされているか確認する。	- グループ内での共有をワークシートに記入させる。 - グループで共有した内容が、これまでに学習してきた事項とどのように関連するのか考えさせる。
まとめ (10分)	1991年の信濃毎日新聞の連載「扉を開けて」を紹介する。(資料③) - 外国人との共生社会に向けて、どのようなことが私たちに求められるのか考える。	- なぜ30年あまり経っても外国人労働者にとって似た状況が続いているか、なぜ状況は改善しないのか考え、自分の考えをワークシートに記入する。 - 信濃毎日新聞の「五色のメビウス」最終提言をもとに、共生社会に向けて、自分たちには何が求められているのか考察する。 - グーグルフォームにて、自分の考えを送信する。	- この30年間で社会状況は大きく変化していることを伝えながら、状況が改善しない背景に何があるか想像させる。 30年前の連載との対比から、信濃毎日新聞の「五色のメビウス」最終提言を本当に実現させるには、どこに視点を向ける必要があるのか考えさせる。

資料①：「投票できぬ外国人 嘆き」(信濃毎日新聞 2021.10.29 5面)

資料②：「分断克服する想像力を 最終提言」(信濃毎日新聞 2021.6.25 1面)

資料③：「扉を開けて 第1部 ゆがむ外国人雇用」(信濃毎日新聞 1991.1.29 23面)

授業ワークシート（配布プリント）

現代社会ワークシート「雇用と労働問題③」 _____ 講座 組 番 氏名

① 衆院選…外国人参政権は？

裏面：資① 「投票できぬ外国人 嘆き」（信濃毎日新聞 2021.10.29 5面）

① 働くにあたって、あなたが最も大事にしたいことは何ですか？

下の10のキーワードの中から一つだけ選んでください。

私が大事にしたいのは・・・ _____

☆10のキーワード

	キーワード	内容	検索ワード
A	仲間とのチームワーク	協力しあって一つのことを成し遂げる	協力
B	経済の豊かさ	お金を稼ぐことで豊かになる	お金
C	自己の成長	成長している実感、人間的に高められる	成長
D	社会的交流	いろいろな分野の人たちと交流できる	交流
E	公のことに貢献する	世のため人のために貢献する	貢献
F	環境のよさ	居心地のよい環境で仕事・生活できる	環境
G	プライベートな時間	家庭を大切にする、自分の時間を大事にする	家庭
H	専門的技術	専門の技術力を身につける	技術
I	能力・才能の活用	自分の能力を最大限に発揮する	能力
J	安心・安全	安定した生活、リスクを負わない	安心 or 安全

② あなたが選んだ、大事にしたいキーワード、日本で働く外国人労働者にとっては
 どうか？置かれている状況や取り巻く日本の環境などについて、
 信濃毎日新聞データベースから関連記事を探してみよう。

信毎 DB URL: <https://db.shinmai.co.jp>

URLのQRコード

ユーザーID:

パスワード:



※検索方法 キーワードに「五色のメビウス ○○（①で選んだ検索ワード）」と入力し検索
 日付（ ）

記事の見出し「 」

記事の内容

- ③ グループで、どのような内容があったのか共有してみよう。

- ④ ②・③を通して、外国人労働者にどのような問題が生じているといえるのだろうか。
グループで話し合い、まとめてみよう。

他のグループの発表は…

- ⑤ 30年あまり経っても、外国人労働者を取り巻く状況が課題として取り上げられている。
なぜ似たような状況が続いているのだろうか、なぜ状況は改善しないのだろうか。
あなたはどのように考えますか。

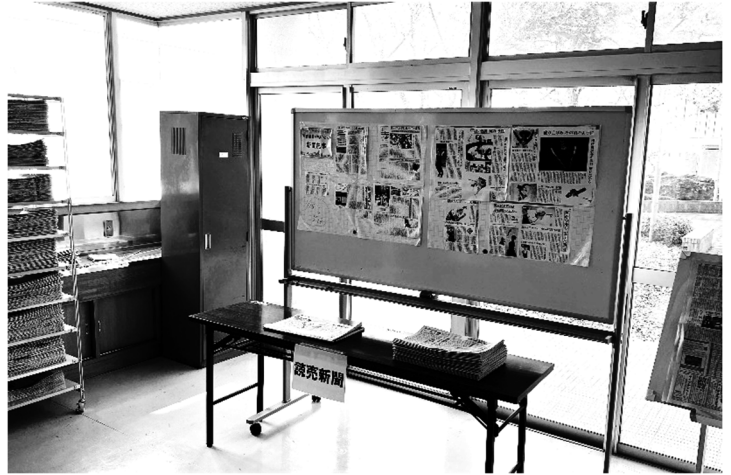
- ⑥ 信濃毎日新聞の「五色のメビウス」の連載の最終提言を実現させるために、共生社会に向けて、
私たちに本当に求められていることは何だと考えますか。

(6) 生徒の反応

・新聞閲覧コーナー

これまで本校では、生徒が自由に閲覧できる新聞は、生徒たちのH R教室がある棟とは別の棟の4階にある図書館に限定されていた。今回閲覧コーナーを分散し、往来がある渡り廊下に設置したことで、今までよりもどの学年の生徒も比較的容易に新聞を閲覧できるようになったと思われる。1年生から3年生までいずれの学年でも、朝の始業前や休み時間に読み込む生徒の姿が見られ、新聞を通して社会を知ることのきっかけづくりができた。

また図書委員会では、委員の生徒が気になった記事を全校に向けて紹介する活動が行われるなど、授業や探究活動だけにとどまらない活動をもたらすことにもつながった。



・信濃毎日新聞データベース

探究活動や教科の授業において、生徒たちが自身の設定した課題や興味関心のあるテーマについて、事例を探したり、社会にある意見を考察したりする際に活用機会が多かった。関連する記事にすぐあたることができ、これまでの実践では時間を要していた記事調べを、比較的時間をかけずに行うことで、より多くの記事を読み込んだり、考察に時間をかけることができたりと、効果的に探究的な学習活動をより深めることにつながった。

・公開授業「今日の労働問題と外国人労働者」

日本における外国人労働者を取り巻く状況を、自分自身が働く際に大事にしたいキーワードと関わらせて探ることにより、生徒たちはその状況をより現実的で身近なものとして捉えることができたようである。グループでの意見共有においても、個々に選んだキーワードは別であっても、共有する中で全体的な課題を見いだすグループもあり、新聞記事をもとにした実態の読み取りから課題の本質に迫るといった学習の深まりも見られた。

「五色のメビウス」の最終提言をもとにしながら、共生社会の実現に向けて求められることを考える最後の問いでは、「外国人労働者に対して、もっと具体的な政策を直接的に政府が行うこと」、「外国人の方々と関わりを持とうとする姿勢や考え方や価値観を共有しようとおもうところ」、「働くことの重要さは誰もが理解しているだろうから、それを行ってくれる労働者への敬意を持つことが大切だと思う」、「人種に関係なく、日本で楽しく生活してほしいという、日本が外国人に寄り添っていく考えを持つべきだと思う」などの意見が出された。「五色のメビウス」の最終提言と、1991年の連載記事「扉を開けて」との比較から、外国人労働者を取り巻く状況が本質的に大きく変化していないことに気付き、外国人労働者や外国人との関わり方、さらにもっと広い意味での他者との社会の構築のあり方などに関心を向け、意見を述べることができていた。

(7) 成果と課題

信濃毎日新聞データベースの積極的な活用で、生徒たちがより幅広い記事に触れる機会の提供につなげることができた。またそれにより、生徒たちの探究活動における新聞活用の手段の幅を広げるものともなった。データベースの活用は、自分の知りたい記事へのアプローチには有効である一方、紙媒体の新聞を読む際の特質である紙面全体を一覧できるという性質、自分が探し求めている記事とは関係ないが新たに興味を持つ記事との出会いなどを得ることができない。紙面をめくりながら、思わぬ記事との偶然の出会いが、自分の興味・関心にも影響することを踏まえて、紙媒体の新聞を読み込むことの良さというものも、新聞閲覧コーナーの充実とともに生徒たちに発信していく必要があると思われる。

探究的な学習における新聞の活用は、活動の入口として果たした役割は大きかったものの、その先の個別の探究・研究にどのようにつなげるか、生徒たちによる新聞活用のアプローチへの援助が不十分となってしまった。係と連携しながら、生徒たちの探究活動を充実させるのに、どのように新聞が活用できるか具体的な例を示しながら、探究活動における新聞活用も充実させていきたい。

教科学習における新聞活用では、現代の課題を読み取り、どのように解決を目指していくかを考えるという学習活動が、新聞記事の活用により充実したものとなることが示された。その際には、直近の新聞記事だけでなく、30年前の新聞記事であったとしても、現在や未来を考えるのに非常に有効な素材であることが明らかとなった。過去を学ぶことは現代を学ぶことでもあるが、そのような視点で考えると、過去の記事であったとしてもそれは「今」を捉えることのできる記事であることに気づくことができたのは非常に大きな成果であった。

本校の生徒育成方針には、「他者の立場に立ち、公正で多角的な視点で物事を捉える人を育てます」、「現代の諸課題に向き合い、最適解を求めようとする人を育てます」という2つの方針が示されている。今回のN I E活動は、これらの方針に大きく寄与するものであったと思われる。次年度以降も生徒の成長へとつながるよう、環境の整備を継続するとともに、学校内での連携をはかりながら、新聞活用の充実を目指していきたい。